

言語習得における母語の影響

～日本人に生じやすい母語の影響～

平成30年度
指導

3年3組(32)
教育学部

正岡 藍理
秋山 正宏

はじめに

外国語学習時の母語の影響を「言語転移 (language transfer)」という。言語転移には「正の転移」と「負の転移」があることがわかっている。

「正の転移」とは母語の転移が第二言語習得に役立つ影響のことで、「負の転移」とは母語の転移が第二言語習得の弊害になる影響のことを指す。

目的

一般的に、英語を話したり書いたりするときに、知識としては正しく理解できているつもりでも、無意識に間違えてしまう文法や表現がある。私は、この原因の一つが第二言語習得における「言語転移」の影響なのではないかと考えた。本研究では、言語転移でも「負の転移」に着目し、日本人が間違いやすい英語表現の分析を行うことで、身近に隠れる言語転移を研究する。ここでは具体例としてhere/thereに注目する。

仮説

- ・ here, thereの位置づけ→副詞である。
- ・ here やthereは名詞ではないということが大前提。

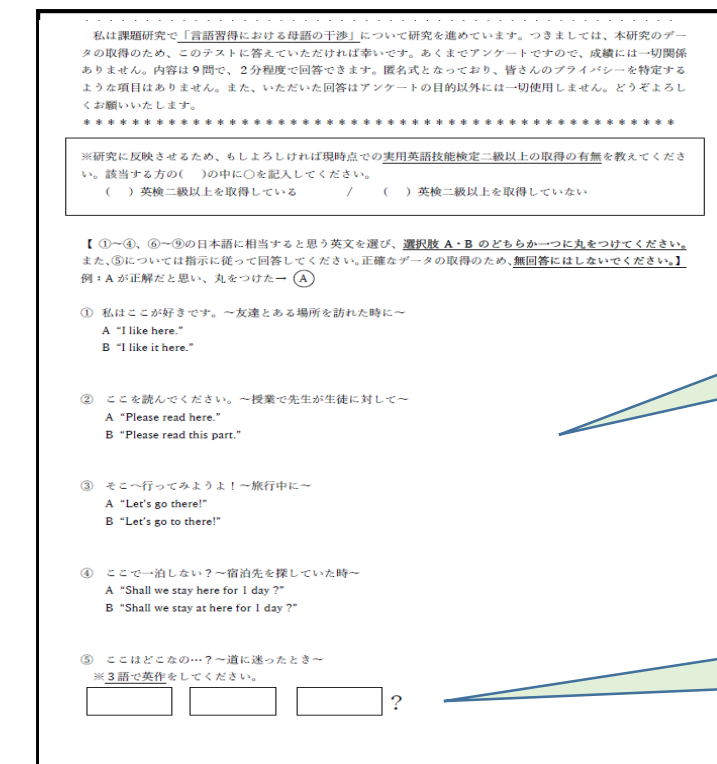


「ここ/そこ」：名詞
↳対応させる
「here/there」：名詞でないが名詞だと認識してしまう
↳負の転移なのでは？
アンケートを行い分析をする

アンケート調査

アンケートについて

- ・ 対象者…愛媛大学附属高校の実用英語技能検定二級以上取得者
- ・ 実施日…5月25日SHR実施
- ・ 主にhereに関する選択問題 (自由記述1問を含む)

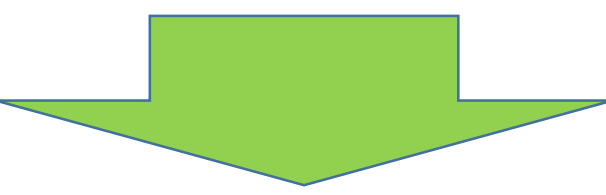


選択肢は二つに限定。

自由記述問題一問。

- ① 私はここが好きです。～友達とある場所を訪れた時に～
- ② ここを読んでください。～授業で先生が生徒に対して～
- ③ そこへ行ってみようよ！～旅行中に～
- ④ ここで一泊しない？～宿泊先を探していた時～
- ⑤ ここはどこなの…？～道に迷ったとき～ ※3語で英作をしてください。

分析



タイプ① 基本的にhere/thereを名詞だと捉えている人

③ そこへ行ってみようよ！
～旅行中に～
A “Let’s go there!” (正答)
B “Let’s go to there!” (誤答)

④ ここで一泊しない？
～宿泊先を探していた時～
A “Shall we stay here for 1 day?” (正答)
B “Shall we stay at here for 1 day?” (誤答)

① 私はここが好きです。
～ある場所を訪れた時に～
A “I like here.” (予想される誤答)
B “I like it here.”

② ここを読んでください。
～授業で先生が生徒に対して～
A “Please read here.” (予想される誤答)
B “Please read this part.”

4人中全員が誤答を選び、正答率0%だった。

予想外。4人全員が正解していた。

タイプ② here/thereは副詞であるという正しい知識はあるが、常に正しく認識できるとは限らない人

③ そこへ行ってみようよ！
～旅行中に～
A “Let’s go there!” (正答)
B “Let’s go to there!” (誤答)

④ ここで一泊しない？
～宿泊先を探していた時～
A “Shall we stay here for 1 day?” (正答)
B “Shall we stay at here for 1 day?” (誤答)

① 私はここが好きです。
～ある場所を訪れた時に～
A “I like here.”
B “I like it here.” (予想される正答)

② ここを読んでください。
～授業で先生が生徒に対して～
A “Please read here.”
B “Please read this part.” (予想される正答)

32人中6人が正答を選び、正答率19%だった。

32人中31人が正解していた。

タイプ②の証明：①～④が全問正解だった6人の分析

⑤ ここはどこなの…？～道に迷ったとき～
※3語で自由記述をしてください。

Their to it ?	Where is here ?	自由記述問題になると here/there を名詞として捉えている人が二人いた。
Where I am ?	Where is here ?	
Where is it ?	Where am I ? (正答)	

母語による負の転移がみられた。

まとめ

① 訳語を当てはめるだけでなく明示的な文法規則を学習する

・例：here/thereの場合であれば、訳語を当てはめるだけでなく品詞の違いを明確にする。

② 学習した文法規則を活用する

・例：英語四技能(listening/speaking/reading/writing)の全ての学習において、その文法規則を実際に使う活動を取り入れる。

③ 第三者による確認

・例：学習した文法規則を正しく使えているか、英語教員やALTに確認をしてもらう。

④ 基本的な姿勢

・①②③は重要であるが、負の言語転移を恐れずに外国語を積極的に使用する態度もまた重要である。

謝辞

お忙しい中、本研究をご指導いただきました愛媛大学教育学部の秋山正宏先生、附属高校の河合直美先生、本当にありがとうございました。課題研究をきっかけに、探求心を忘れず、何事にも挑戦していきます。

参考文献

- ・ 外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か (岩波新書) 白井恭弘
- ・ 英語を第2言語として学習する際のエラーについて ～一般的な傾向と日本人学習者の冠詞エラー～ 鈴木智子
www2.dokkyo.ac.jp/~esemi008/papers/suzuki.pdf